

金沢大学へご献体いただいたご遺族の方へ 膝蓋下脂肪体の動態を利用した膝の研究について

スポーツ現場において前十字靭帯損傷は発生頻度が高く、アメリカでは年間10万件、日本では2～3万件とされています。損傷した前十字靭帯はその解剖学的特徴から修復する見込みは低いとされており、関節鏡視下にて行う再建術（手術）が現在では標準的な治療法とされています。

前十字靭帯損傷の診断は、受傷機転の聴取、徒手検査、画像検査（単純X線撮影、MRI検査）にて行われています。完全な断裂は比較的診断することは容易ですが、不全断裂に関しては診断に苦渋することがあります。

そこで本研究ではレントゲン検査やMRI検査といった静的な画像検査ではなく、動的な評価を画像化するために、高度な解像度を備えた超音波診断装置を用い、水分含有率がより生体に近く、関節が可動する（動く）Thiel法固定のご献体を対象に行い、前十字靭帯損傷の診断精度を向上することを目的とします

ただし、このような膝の脂肪体を利用した前十字靭帯損傷の評価についてはこれまでまとまった研究がなく、詳しくわかっていませんでした。こうした疑問に答えるために、2018年8月から2020年3月の間に、本学に献体されたご遺族を対象に研究を予定しております。

なおこの研究ではご遺族の方々のご負担はありませんし、費用のご負担もございません。

なお、この研究は、金沢大学医学倫理審査委員会の審査を受け、金沢大学医薬保健研究域長の承認を得て行っているものです。

1. 研究の対象

2018年8月から2020年3月までに本学に医学教育、研究のために献体され、医師の教育、研究に使用することをご本人が承諾されご家族が同意されたご遺族を対象とし、この研究に参加したくないご遺族の方がいらっしゃいましたら、そのことをお申し出ください。その場合、そのご遺体は本研究に使用いたしません。

2. 研究の目的について

研究課題名：膝蓋下脂肪体の動態を診断マーカーとした前十字靭帯損傷の定量的超音波（エコー）評価

この研究では、ご遺体で前十字靭帯損傷における膝の脂肪体との関連を調べることを目的としています。

3. 研究の方法について

この研究では、2018年8月から2020年3月までに本学に献体されたご遺族を対象に研究を予定しております。筋肉や骨、関節、靭帯といった運動器を対象とするため、それらに対し大きな手術などを受けていらっしゃる部位は除外させていただきます。解剖させていただく前に注射針を用いて目印となるものを膝の脂肪の中へ挿入し、超音波（エコー）で観察させていただきます。次に可能な限り、他の組織は傷つけず前十字靭帯を解剖させていただき、その靭帯を少しずつ切り、もう一度超音波（エコー）で膝の脂肪の動きを確認し、最初に見た画像と比較する方法で行います。観察後、膝の脂肪組織を染色法（その組織に色をつけて見る方法）にて内部構造を確認します。

なお、集積されたデータは学会発表、学術論文などでまとめて公表されることがありますが、個

1 1. 研究への不参加の自由について

試料・情報が当該研究に用いられることについて、ご遺族の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、2018年11月30日までに下記の問い合わせ先までお申出ください。

1 2. 個人情報の開示について

金沢大学における個人情報の開示の手続については、次のホームページを参照してください。

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_syomu/kojin-jyouho/

1 3. 研究計画書など資料の入手について

この研究の研究計画書などの資料が欲しい、またはごらんになりたい場合は、研究に関する窓口にお問い合わせくだされば、対応いたします。

1 4. 研究に関する窓口

この研究の内容について、わからない言葉や、疑問、質問、自分がこの対象の対象になるかなど、更に詳細な情報をお知りになりたいときには、遠慮せずにいつでもお尋ねください。

研究機関の名称：金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学

研究責任者：尾崎 紀之（金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学 教授）

問合せ窓口：島 留美（金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学）

住所：金沢市宝町13-1

電話：076-265-2156